

救護第15班 4月7日～4月14日 医師・采田 志麻



石巻に着いた日の夜、最大余震の震度6強の地震がありました。宿舎にいた時で、前の班が緊張したのを見て、ただ事ではないと思いました。停電で非常灯の中で救護服を着て待機、テント班からの出動依頼をうけて病院へ向かいました。救護よりも自分たちが地震に遭ったのが先でした。その後しばらくは、すぐ対応できるようにと救護服のまま過ごしました。



翌日は午前中、病院に待機して、午後から様子を見るため鳴瀬庁舎の救護所へ行ったら、患者さんが列を作っておられたので、そのまま診療。この日は多かったです。落ち着いてきた時期で(1日に30～40人)、慢性疾患や軽いけがくらい。上気道炎や気持ちの不安を訴える人が多かったと思います。

救護所のそばに避難所があり、巡回診療もしました。避難所のライフラインは余震で止まってしまい、停電は数日で復旧しましたが、水道は私たちがいた13日までは断水が続いていました。

救護活動はそれぞれが1つの小さなクリニックとして機能するチームで、そのためにいろんな職種の人が必要だし、外の活動をバックアップしてくれる病院のチームなど、大きなチーム、小さなチームがそれぞれ能力を発揮していくためにも、仲間意識が大事だなと思いました。